

きずな(絆) No.42 発行:全日本民医連 震災対策本部

★★関連情報・重要なおしらせを全日本民医連 HP に掲載しています。活用してください。

全国の仲間で被災者のもとへ！民医連綱領の実践を

■「高血圧、糖尿病、感染症など気になる方が複数」山口民医連



薬剤師から避難所での支援報告です。「塩釜公民館での診察は午前中のみでしたが、あまり診察希望はなく、処方も少なかったです。写真のような感じで臨時ブースを作りました。診察終了後は医師、看護師に同行し、避難所内の各部屋を訪問しました。30年前から肺気腫で数メートル歩くにも息切れがする方、身よりがなく血圧が高いが未治療な方、糖尿病で右足の親指に感染がある方など気になる方が数名いました。理学療法士を中心に足浴を始めてから楽

しみにしている方が多くいます。部屋に籠もりつきりにならないようにと始めた取り組みです。明日から薬局支援に入ります。津波の影響でカルテが水没しましたが、システムは一部復旧しているようです」(東日本大震災「山口民医連・健文会合同支援ニュース No.8」4/8 より)

■「避難所内に保育や児童クラブのような体制が必要」高知民医連

セラピストから避難所での支援報告です。「多賀城中学校での支援は、午前中は、ノロウイルスとインフルエンザ対策の消毒をしました。電気も水道も止まっているため、汚れたプールの水しか手洗いに使えないため、100Lの水を手洗い用に使ってもらうことに喜びられました。昨夜この避難所で小さな子どもが騒いだことに腹を立てた方が包丁を持ち出すといった騒ぎがあり、警察官が巡回していました。そんなこともあったため、午後は急遽、折り紙を持った新人看護師グループとボールでサッカーをする若手男性グループを作り、子どもと一緒に遊んだり話を聞くなどの支援を行いました。今後は、避難生活の長期化に備え、絵本の読み聞かせやおもちゃで一緒に遊ぶなど QOL 面での支援と、できれば一時避難所内保育や児童クラブのような体制をつくり、その間、母親を休ませてあげるなどの対応が必要と思いました」(高知医療生協・高知民医連「東日本大地震災害支援ニュース No18」4/12 より)

■「ペットの診察など、さまざまな側面からアプローチ」愛媛民医連

愛媛の4人は宮城に到着し、七ヶ浜地区を視察しました。タクシーの運転手の話では、だいぶ瓦礫も撤去されたとのことですが、車や船があちこちに転がっている状態でした。医学生も驚きと悲しみでいっぱいのような様子でした。450名が避難している多賀城市の総合体育館の支援に入り、避難されている方がペットの犬の心音を聞いてほしいとのことで、医師は心音を聞くなど、家庭医としてさまざまな側面からアプローチをしていました。医学生は足浴を初めて体験し、被災者とのコミュニケーションを取り信頼を深めていました。愛媛4人組は元気に頑張っています！



(東日本大震災「愛媛民医連支援ニュース 第9・10号」4/15・4/19 より)

<おしらせ> ****

○法人・事業所・県連が発行された支援ニュースや新聞報道掲載記事などは、info@min-iren.gr.jp(全日本民医連代表アドレス)に、集中してください。

○全日本民医連HPで関連情報・動画を掲載。活用し職場での意思統一、学習会を積極的に開催しよう。
